

## 第 19 回名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）活性化協議会

日時 平成 28 年 2 月 3 日（水）午後 1 時 45 分から

場所 御嵩町中公民館 3 階ホール

開 会

1. 会長あいさつ

2. 議事等  
協議事項

協議第 1 号 平成 28 年度以降の活性化策について

3. その他

閉 会

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）活性化協議会 名簿

<顧問>

平成28年2月3日現在

	役職名等	氏名	備考
県議会	岐阜県議会議員	小原 尚	
	岐阜県議会議員	伊藤 英生	

<委員>

	役職名等	氏名	備考
首長	会長	御嵩町長	渡邊 公夫
	副会長	可児市長	富田 成輝 代) 高木伸二
	副会長	八百津町長	金子 政則
議会	監事	御嵩町議会議長	大沢 まり子
	監事	可児市議会議長	川合 敏己
		八百津町議会議長	林 俊宏
		御嵩町議会総務建設産業常任委員会委員長	谷口 鈴男
		可児市議会建設市民委員会委員長	野呂 和久
教育関係者		御嵩町教育長	高木 俊朗
		可児市教育長	籠橋 義朗
		八百津町教育長	堀部 義郎 欠席
		可茂地区高等学校PTA連合会会長	小林 稔幸
		可茂地区高等学校校長会会長 (加茂高等学校校長)	高橋 博美
		岐阜県立東濃高等学校校長	平井 学 代) 片山澄美
		岐阜県立東濃実業高等学校校長	橋本 清 代) 西垣幸司
経済関係者		岐阜県立八百津高等学校校長	高木 久美 欠席
		御嵩町商工会	寺尾 光彦
		可児商工会議所	片桐 厚司
		八百津町商工会	佐合 重光
		御嵩町観光協会	伊崎 公介
住民代表者		可児市観光協会	林 則夫
		御嵩町自治会長連絡協議会会長	田中 一成 欠席
	可児市広見東自治連合会会長	古田 晴雄	

<関係者（指導・助言）>

	役職名等	氏名	備考
国	国土交通省中部運輸局鉄道部長	梶川 真一	代) 小川賢二
岐阜県	都市建築部都市公園整備局公共交通課長	沖川 弘毅	

<事務局>

	役職名等	氏名	備考
御嵩町	総務部長	寺本 公行	
	企画調整担当参事	葛西 孝啓	
	企画課 課長	各務 元規	
	企画課 係長	高木 雅春	
可児市	建設部長	村瀬 良造	
	都市計画課 課長	田上 元一	欠席
	都市計画課 係長	池村 一郎	
八百津町	産業課 課長	藤本 清久	
	産業課 課長補佐	大坪 眞	

第 19 回名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）活性化協議会  
議事等綴り

協議第 1 号 平成 28 年度以降の活性化策について

平成 28 年 2 月 3 日 提出

平成28年度～平成30年度

名鉄広見線  
活性化計画  
(案)

-人と地域を未来へつなぐ-

平成28年3月

名鉄広見線活性化協議会

# 目次

第1章 活性化計画について	-----
1. 目指す姿	
2. 活性化計画策定の目的	
3. 活性化計画の期間	
第2章 現状（ふりかえり）	-----
1. 第2期名鉄広見線活性化計画について	
(1) 活性化計画期間	
(2) 活性化に向けた活動計画の目標	
(3) 目標を達成するための推進体制	
(4) 目標を達成するための施策	
第3章 目標	-----
1. 目標	
2. 目標値	
第4章 実施体制	-----
1. 関係者の役割	
2. PDCAサイクル	
3. 体制図	
第5章 実施計画	-----
1. 実施計画一覧	
2. 個別実施計画	

## 第1章 活性化計画について

### 1. 目指す姿

関係市町、議会、教育関係者、経済関係者、市・町民が一体となって、名鉄広見線(新可児駅～御嵩駅)の活性化に取り組み、名鉄広見線及び沿線地域が活性化し、名鉄広見線が市・町民にとって必要な社会インフラとして存在し続けること。

### 2. 活性化計画策定の目的

(目標の設定)

“目指す姿”を実現するため目標を設定し、目標達成に向けて各種取り組みを実施する。

(各団体の連携)

名鉄広見線の存続問題については、市・町民を含む関係者全員で連携して取り組み、また、各構成団体が果たすべき役割を明確にする。

(数値目標の設定)

具体的な数値目標を設定し、P D C Aサイクルを活用することで常に実施計画を見直し、目標の達成を目指す。

### 3. 活性化計画の期間

活性化計画の期間は、名古屋鉄道株式会社への運営支援期間に合わせた、平成28年度から平成30年度の3年間とする。

## 第2章 現状（ふりかえり）

### 1. 第2期名鉄広見線活性化計画について

#### (1) 活性化計画期間

平成25年度から平成27年度までの3年間

#### (2) 活性化に向けた活動計画の目標

目標 ⇒ 平成24年度の利用者数を維持する

年度		目標	活動期間		
		H24	H25	H26	H27
輸送人員 (千人/年)	通勤	263.6	259.1 △4.5	232.7 △30.9	219.3 △44.3
	通学	500.8	504.4 3.6	472.0 △28.8	499.5 △1.3
	定期外	184.3	177.8 △6.5	175.3 △9.0	178.5 △5.8
	合計	948.7	941.3 △7.4	880.0 △68.7	897.3 △51.4

(単位：千人)

備考：各欄上段(実数値)、下段(目標に対する増減)

実数値のH25、H26は確定値。H27は、H27.4月から12月までの名鉄の実績により事務局としての推計値

## 第2期名鉄広見線活性化期間のふりかえり

※平成24年度の利用者数948.7千人を維持することとしていたが、3年間維持することができなかった。

※名鉄広見線活性化協議会の構成団体に加え、ワーキンググループを新たに設置し、具体的利用促進策を実施する体制を構築し、いなか歩きマップの作成や高校生の自主的な署名活動などが行われたが、自主的に活動できなかった団体もあった。

※目標を達成するための施策として、定期券利用者（通勤・通学）を増やすための利用促進策など利用者への補助事業など14の施策を実施しその施策の目標を23,600カウントとして取り組んできた。平成25年度の達成率は134.0%、平成26年度の達成率は99.6%となり、概ね目標を達成することができた。

※平成26年度に実施した沿線住民アンケート調査の結果では、広見線の運行継続は必要と回答した方が71%、広見線運行の費用負担が必要であると回答した方は68%であった。広見線運行の費用負担については、平成20年度の調査結果の65%より3%増加しました。また、平成26年度の調査結果から、高齢者を始めとする交通弱者の日常生活を守るため、交通手段を確保していかなければいけないこと、高校生の通学手段として広見線が無くなった場合に影響が出るということが分かり、運行継続が必要だという声が増加しました。

※定期券利用者（通勤・通学）は、平成24年度と平成26年度を比較すると、通勤は12%減、通学は6%減少しており、今後も人口減少・少子高齢化社会が進んで交通弱者が増加する中で、公共交通の核となる鉄道の維持は社会インフラとして必要不可欠。



## 前回の協議会で確認したこと

- 地域内の日常生活で利用している人向けの施策に加えて、地域外からの非日常（観光・イベント）での利用者向けの施策の展開も。
- 名鉄広見線という線の考え方から、地域全体の核となり面をつくるツールという考え方を導入し、広域的な地域活性化を目指すための協力と交通体系の整備へ。
- 役割を明確化して、それぞれの役割を果たす体制構築へ。



## 第3章 目標

### 1. 目標

“目指す姿”実現に向け3つの目標を立て、取り組みを実施する。

#### ①地域外からの利用を増加させる

イベントの開催や観光資源の掘り起こし・PR等の各団体による地域・団体の特色、魅力作りにより地域の活性化を図り、観光客等の地域外からの利用者の増加を目指します。

#### ②地域内の利用促進を図る

継続的な利用が見込める地域内利用者に対し、様々な補助を行うことで利用を促進し、各団体においても補助制度の周知等連携して取り組むことで、広見線の活性化を目指します。

#### ③地域にとって必要な社会インフラである認識を高める

名鉄広見線が市・町民にとって必要な社会インフラであり、未来に残していくべき資産であるという認識を高めるため、各団体が意識啓発活動を行います。

### 2. 目標値

#### ①地域外からの利用を増加させる

目標値例 ⇒ 3市町の観光入込客数を平成27年度より●割増加

#### ②地域内の利用促進を図る

目標値例 ⇒ 地域内の利用促進を図る利用促進策により目標とするカウント数  
●カウント

#### ③地域にとって必要な社会インフラである認識を高める

目標値例 ⇒ 人と地域を未来へつなぐ社会インフラであるという認識が一層高まっている。

## 第4章 実施体制

### 1. 構成団体の役割

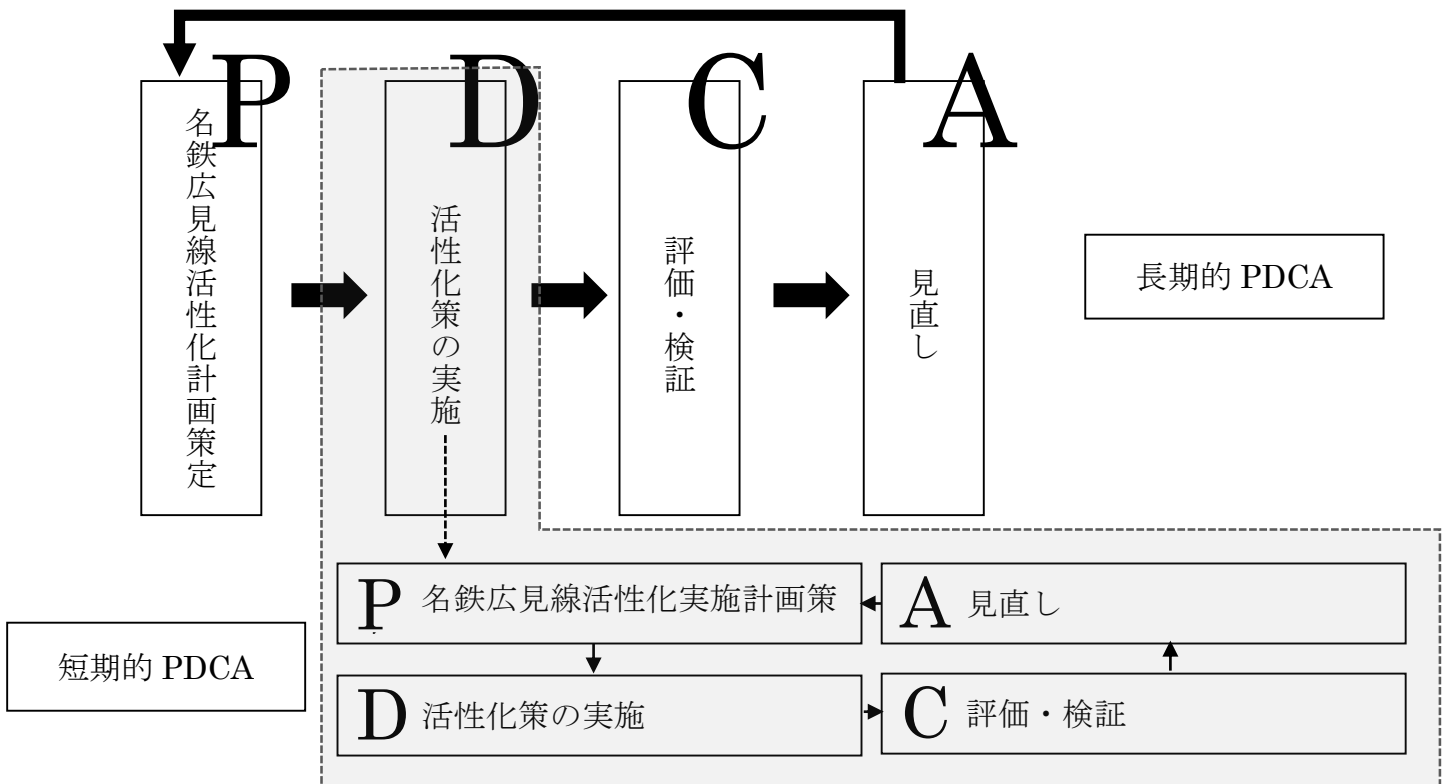
目標に対し、各構成団体の役割を示す。

	3市町	議会	教育関係者	経済関係者	市・町民
①地域外からの利用を増加させる	○	○		○	
②地域内の利用促進を図る	○	○	○	○	○
③地域にとって必要な社会インフラである認識を高める	○	○	○		

※各構成団体は、全てに取り組んでいただくことを原則とします。丸印がある目標は特に取り組んでいただくものです。

### 2. PDCA サイクル

「計画-実行-検証-改善」を行いながら、施策を実施し、計画を必要に応じて見直す。計画期間の3年間のPDCAと、年度毎に活性化策を修正するPDCAを行う。



## 第5章 実施計画

### 1. 実施計画一覧

#### ①地域外からの利用を増加させる施策

No	事業名	実施主体	事業年度		
			H28	H29	H30
①-1	活性化協議会イベント事業(H28)	御嵩町・可児市・八百津町	○		
①-2					
①-3					
①-4					
①-5					

#### ②地域内の利用促進を図る施策

No	事業名	実施主体	事業年度		
			H28	H29	H30
②-1	定期券利用者応援制度事業	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-2	運転免許証自主返納者支援制度事業	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-3	団体利用運賃補助制度事業	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-4	YAOバス団体利用運賃補助制度事業	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-5	回数券購入補助制度事業	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-6	沿線団体イベント補助制度事業	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-7	沿線公共機関職員の積極的電車通勤取り組み	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-8	沿線公共機関の自主的な取り組み	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
②-9					
②-10					
②-11					

#### ③地域にとって必要な社会インフラである認識を高める施策

No	事業名	実施主体	事業年度		
			H28	H29	H30
③-1	情報発信による意識啓発事業	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
③-2	ノーマイカーデーの実施	御嵩町・可児市・八百津町	○	○	○
③-3					
③-4					
③-5					